The Reform of teacher education in Germany in the Bologna process and its present situation: On the pre-service courses of teacher education, their licenses and the bachelor-master system in German states and universities

SUZUKI Atsushi  SUGIHARA Kaoru

Germany is engaged in the reform of higher education system in the Bologna process originated with the signing of the Bologna declaration in 1999 by Ministers of Education from 29 European countries (46 in 2010). In this process, also the German system of teacher education had to be reformed fundamentally which showed historically one of the unique European variations. However, this German reform process occurs in each state and also in some universities separately and independently.

In this study, we showed the present situation in each state and each prominent university: 1) on the term of pre-service courses of teacher education in states and universities, 2) on the sort of teacher licenses given in each university, 3) on the situation of the introduction of bachelor-master system into universities, 4) on the term of teaching practice in pre-service course and 5) on the sort of the courses of education studies out of the pre-service course.

1) In the state already introduced the bachelor-master system, the terms of pre-service are, in general, four year (for Grund-, Haupt- and Realschule) or five year study (for Gymnasium) and one and a half to two year probation. In other states, the terms of the study amount to a half year shorter. Tendentiously, the terms became longer by the introduction of the bachelor-master system.

2) On the sort of teacher licenses, many states and universities have own character and no principle can be found there.

3) Of prominent universities, 28 have already introduced the bachelor-master system, 6 have introduced one in some courses and 35 stick to the German traditional pre-service course.

4) States and universities require different teaching practices in different terms (e.g., 11 weeks in Mecklenburg-Vorpommern and approximately 8 months in Nordrhein-Westfalen).

5) Prominent universities provide several courses of education studies with nine themes. They don’t always have courses with same themes in both courses of bachelor and master.

As shown in this study, German states and universities face the reform originated in the Bologna process in several ways and show various approaches to the fundamental change. For us, Japanese researcher, this German reform process oriented to the “quality assurance of education” shows possible ways of the reform toward Bologna.

Key words: Germany, Teacher's license, Teacher education, Bachelor-master system, the Bologna process

１．課題設定
1998年にドイツ、イギリス、フランス、イタリアの文部大臣らがパリに集い、ソ連真言と呼ばれる取り決めを行ったが、その中でヨーロッパ規範での大学教育制度の共通化（大学間移動の自由化、資格の共通化、学士と修士からなる二段階学位システムの構築、履修単位制度の導入）が求められた。この動きは翌年、29カ国間でのポローニャ宣言の締結につながり、その後参加国は46カ国に増加している。ポローニャ・プロセスと呼ばれるこの動きは長らく独自の大学制度を維持してきたドイツに対してとりわけ大きな変化を迫るものであり、教員養成制度もまた2010年までに制度改革を求められることがとなった。

この流れを受け、大学学長会議（Hochschulrektorenkonferenz）は2006年1月23-24日に「ポローニャからクウェドリンブルクへ：ドイツにおける教職課程改革

*兵庫教育大学資料助教  **広島大学

平成23年4月21日受理

241
革」と題する会議を開催した。シュレسنティヒ・ホルシュタイン州の教育大臣であったエルトジッカー・フェは会議の冒頭で、教職課程における学士や修士の意味を次のように説明している。

「学士の教職課程の目標は職業の専門性を保証する卒業資格の獲得である。卒業資格の取得は、学校外での職業実践に直接関与することにより自らの専門的知識、技術や伝達能力を身につけ、それに必要な専門的知識に関する修士号が教職にとらえられた卒業資格（Lehrabschluss）を目指してさらに学修を進めるか、選択することが出来る。職業活動に携わる際にさらなる学問的専門性を獲得することも可能であり、たとえば教職の資格を得ることのできる修士課程に進むことが可能である。」

すなわち、学士・修士制度が導入されることで教職志望者の選択肢が広がったが、同時に教員養成制度はその構造をより複雑なものとし、多様性的側面を増すことになった。さらに、テイエラックが述べるようにこの改革によって教員養成における州と大学の関係は大きく変わることとなり、州と大学の間で教員養成制度や教職課程に関する決定権を巡る争いが起きることとなった。同会議ではH.-E. テノルトをはじめとする教育学者らが改革に伴う問題点や可能性について様々な指摘を行っているが、ポローニャ宣言後の改革の流れはすぐに着しきるものとなっており、さらには学士・修士制度の導入にとどまる

<table>
<thead>
<tr>
<th>免許校種</th>
<th>基礎学校</th>
<th>基幹学校</th>
<th>実科学校</th>
<th>ギムナジウム</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>バーデン・ヴュルテンベルク州</td>
<td>修学期間</td>
<td>試補期間</td>
<td>修学期間</td>
<td>試補期間</td>
</tr>
<tr>
<td>7年</td>
<td>6年</td>
<td>5年</td>
<td>4年</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ベルリン</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
</tr>
<tr>
<td>ノルトライン・ヴェストファーレン州</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
</tr>
<tr>
<td>シュレシェヴィッチ・ホルシュタイン州</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表1 教員免許取得のための修業期間

<table>
<thead>
<tr>
<th>免許校種</th>
<th>Amt der Lehrerin/ des Lehrers (基礎学校相当)</th>
<th>Amt der Lehrerin/ des Lehrers in zwei Fächern (基幹・実科学校相当)</th>
<th>Amt der Studienrichterin/ des Studienrats (ギムナジウム相当)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ベルリン</td>
<td>修学期間</td>
<td>試補期間</td>
<td>修学期間</td>
</tr>
<tr>
<td>ブランデンブルク州</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
<td>2年</td>
</tr>
<tr>
<td>プレーメン</td>
<td>18か月</td>
<td>18か月</td>
<td>18か月</td>
</tr>
<tr>
<td>ハンブルク</td>
<td>18か月</td>
<td>18か月</td>
<td>18か月</td>
</tr>
</tbody>
</table>

242
ことのない多様な改革が各州や各大学において試みられているにつながっている。

ドイツにおける教員養成はこれまでにも我が国において注目を集めており、すでに無数の著作物が記されているが、この改革の動向もまた数多くの研究者の注意を引いている。しかしながら、これまでに一方において同国における多様な教員養成制度を通じて一般化し「ドイツの教員養成制度一覧」について論じようとする傾向が見られ、他方では個々の事例の詳細な検討に重点を置くがゆえに全体像との関係性が損なわれているという研究が存在してきたように思われる。だが、急速な改革が進む中、もはや「ドイツでは」「この州／大学では」といった言葉ではドイツの教員養成制度や教職課程を語りえない状況になっているといえよう。それゆえ本稿では、教職課程の構成や学士・修士制度の導入状況などを明らかにすることによって、上掲諸者の類型に属する諸研究を位置づけるための、教員養成制度の改革と現状の全体像を提示したい。

本分析では主に Die Länder der Bundesrepublik Deutschland und Bundesagentur für Arbeit (2010) ならびに Deutscher Bildungsserver、連邦各州の教育関係諸官庁へのホームページ上の情報を資料として用い、検討を行った。これらの資料は部分的に誤った情報を含んでいる場合もあり、従来、必ずしも学術資料として認められてきたものではないが、各州・各大学の最新の状況を示すものであり、他の資料によっては得られない最新の情報を含む点において、資料としての価値を十分に有している。それゆえ、本分析においては複数の資料を照らし合わせることで個々の誤りを修正し、情報の正確さに注意を払っている。

2. 各州および主要大学における教職課程と取得可能免許

周知の通りドイツにおける教育制度は州によって大きく異なる部分があり、修学年限や学校種、教員免許に関しても地域差が見られる。それゆえ全州・大学を同一の基準で比較することは容易ではないが、以下では教職課程における修業年限および取得可能な教員免許の種類について確認したい。

まず、教員免許取得のための修学期間は州ごとに次のよう規定されている。

州によって各種教員免許の取得に要する標準修学年限および試補期間の長さは異なるが、もっとも一般的であるのは学士・修士制度を導入している地域で、基礎・基幹・実科部門の教員の場合が合計4年間の学修+1年半〜2年程度の試補期間、ギムナジウム教員の場合が合計5年間の学修+1年半〜2年程度の試補期間の組み合わせであるといえよう。学士・修士制度を導入していない
地域では、基礎・基幹・実科学校の教員の場合で合計3年半～4年程度の学修+1年半～2年程度の試補勤務、ギムナジウム教員の場合で合計4年半～5年程度の学習+1年半～2年程度の試補勤務の組み合わせも見られるが、学士・修士制度の導入により全体的に教員養成が長期化している様子を見取れる。

また、各学校検の教員免許のうち、全州において共通性が見られる16教科（ドイツ語、英語、フランス語、歴史、地理、数学、物理、生物学、化学、哲学・倫理、宗教（プロテスタント）、宗教（カトリック）、芸術、音楽、情報学、スポーツ）の免許課程について主要大学の状況をリスト化すると以下のようになる（表2）。

これらの表からは、州によって教職課程の設置状況に偏りがあることが読み取れる。例えばバーデン＝ヴェルテン州ではほとんどの主要大学に職業学校教員の養成課程が設けられておらず、数少ない例外のカールスルーエ・テクノロジー・インスティテュートにおいても上掲16教科の免許は取得できない。また、我が国におい
3. 数学教員の課程概要

以下の表は、数学教員の課程概要を示しています。各項目は、数学教育の重要なテーマを含むものがあります。教員は、これらのテーマに対して、深く学び、理解し、実践できるように努めたいと考えています。
<p>| | | |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
表3 主要大学の教授課程における学士・修士の学位制度の導入状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>学士・修士制度</th>
<th>学士・修士制度</th>
<th>学士・修士制度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入済み</td>
<td>部分的に導入済み</td>
<td>未導入</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルリン自由大学</td>
<td>カールスルーエ・テューリンゲン大学</td>
<td>フライブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルリン・フリードリヒ・シュトラーテル大学</td>
<td>ヴァイナインゲン大学・ニュルンベルク大学</td>
<td>フライブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ポツダム大学</td>
<td>バイエルン工科大学</td>
<td>ハイデルベルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ブレーメン大学</td>
<td>マックスプランク農学研究所</td>
<td>ハイデルベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハンブルク大学</td>
<td>シュヴァリエ・フレデリック大学</td>
<td>ホーエンホイヘ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>プラハ人工科学大学</td>
<td>ヴルトビヒスブルック大学</td>
<td>カールスルーエ・テューリンゲン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ゲッティンゲン大学</td>
<td>コンスタンツ大学</td>
<td>リート・リヒトハイム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハノーファー大学</td>
<td>ルートヴィヒスブルック大学</td>
<td>マンハイム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヒルデスハイム大学</td>
<td>シュヴァリエ・ミュンヒエン大学</td>
<td>メンハイム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>リューネブルク大学</td>
<td>ドイツ工科大学</td>
<td>ドイツ技術大学</td>
</tr>
<tr>
<td>オルデンブルク大学</td>
<td>カイザースラウテルン工科大学</td>
<td>フライブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>オストフライブルク大学</td>
<td>コルンフランツ・ランゲ大学</td>
<td>ルートヴィヒスブルック大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴェクタ大学</td>
<td>マインツ大学</td>
<td>ワルム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ビーレフェルト大学</td>
<td>ドルムント大学</td>
<td>ヴァイナインゲン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ポッホム大学</td>
<td>ミュンスター大学</td>
<td>アウグスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ドルムント工科大学</td>
<td>カイザースラウテルン大学</td>
<td>ハンブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ミュンスター大学</td>
<td>カイザースラウテルン工科大学</td>
<td>アヒシュテット＝インゴルシュタット大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴュッパルト大学</td>
<td>コルンフランツ・ランゲ大学</td>
<td>ミュンヘン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>カイザースラウテルン工科大学</td>
<td>マイニッツ大学</td>
<td>パルウサ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>コルンフランツ・ランゲ大学</td>
<td>ドイツ工科大学</td>
<td>レーゲンスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>マインツ大学</td>
<td>ドイツ工科大学</td>
<td>ヴェルツブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>フライブルク大学</td>
<td>マルブリヒ大学</td>
<td>フランクフルト＝アム・マイン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>フライブルク大学</td>
<td>グライスヴァルト大学</td>
<td>マールブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>シュヴァリエ・ミュンヒエン大学</td>
<td>ロシュトック大学</td>
<td>ヴェルツブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>シュヴァリエ・ミュンヒエン大学</td>
<td>アーネン工科単科大学</td>
<td>ドイツ工科単科大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ミュンヘン大学</td>
<td>ドイツ技術大学</td>
<td>カルルスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>パルマ大学</td>
<td>シュヴァリエ・ミュンヒエン大学</td>
<td>カルルスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>シュヴァリエ・ミュンヒエン大学</td>
<td>サールブルク大学</td>
<td>イーナ大学</td>
</tr>
</tbody>
</table>

今後、ボロニャ・プロセスに基づく改革がさらに進めるので、学士・修士制度を採用する大学は増加することが予想される。しかししながら、現状においては学士・修士制度を導入していない大学数はいまだ大きな割合を占めており、そのうち20校をバーデン＝ヴュルテンベルク州と（すでに同制度の全面導入を決定している）ノルトライン＝ヴェストファーレン州とに位置する大学が占めている。前者は連邦州の中で唯一、教育大学を残しており、2011年より教職課程に登録を行う際にインターネット上の適正診断テストの証明書提出を義務付けられるなど、教員養成に関連して積極的に改革を試みている州であるといえよう。今後の同州の動向によっては、教育課程においても急速に学士・修士制度が広まることが予想される。

4. 教育実習の充実
ボロニャ・プロセスを受けて進められている教員養成制度や教職課程の改革であるが、テノートによりその強い動因となっているのはPISAにおけるドイツの成績不振であった。PISAショックとして呼ばれるこの結果は様々ななかたちでドイツ社会に大きな影響を与えたが、折しもボロニャ・プロセス下の大学改革も重なって教員養成制度や教育課程に関する大きな影響を及ぼしたのである。例えば、PISAの結果は学校教育におけるスタンダード化を促すこととなったが、州や文部省会議はE. テアハートやテノート、O. エルカースらの教育者を中心として教員養成のためのスタンダード（KMK教員養成スタンダード）の作成を進め、同スタンダードに基づき各州の教員養成制度の再検討するよう求めている。各州の文部省はこのKMK教員養成スタンダードを参考に州独自の教員養成スタンダードを作成し、各大学は州の教員養成の教職課程を反映させることが要請されているのである。このようなことが可能になったのも、ボロニャ・プロセス下において各大学がカリキュラムをモジュール化するよう求められたことによるものであり、各大学はカリキュラムをモジュール化することによってカリキュラムの全体像を把握し、その場を加えることが可能になった。
<table>
<thead>
<tr>
<th>ヘッセン州</th>
<th>メクレンブルク＝フォアポルン州</th>
<th>セントラル＝フルート州</th>
<th>ザクセン＝アンハルト州</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>基礎学校・基幹学校・実科学校・ギムナジウム</td>
<td>基礎学校・基幹学校・実科学校・ギムナジウム</td>
<td>基礎学校・基幹学校・実科学校・ギムナジウム</td>
<td>基礎学校・基幹学校・実科学校・ギムナジウム</td>
</tr>
<tr>
<td>オリエンテーション実習（Orientierungs-praktikum）: 4週間以上</td>
<td>実習を2度: 各3週間</td>
<td>企業等での産業実習（Betriebspraktikum）</td>
<td>教育実習: 5週間</td>
</tr>
<tr>
<td>社会実習（Sozialpraktikum）: 3週間</td>
<td>オリエンテーション実習: 1か月以上</td>
<td>職業領域実習（Berufsfeld-praktikum）: 1か月間</td>
<td>教育実習: 5か月以上</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>オリエンテーション実習: 2週間の実習を2回と3週間の実習を1回</td>
<td>発展実習（Vertiefendes Praktikum）: 2週間の実習を2回</td>
<td>修士課程進修後教科実習（Fachpraktikum）: 4週間の実習を2回</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>修士課程進修後教科実習</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表4 各州における教育実習の種類と期間

ボローニャ・プロセスと重なるかたちで生じたこのような教員養成の充実を求める要望の中, 各大学は教員養成に前もってより真剣に取り組むことを余儀なくされ, 従来は大学の課題としてみられてこなかった活動にも取り組むようになっている。その代表的なものが大学在学中の教育実習の充実である。従来であれば, 教員養成の第一段階である大学の学修においては理論的訓練が求められ, 実践面でのトレーニングは第二段階である講習期間になってようやく取り組むべき課題であった。しかしながら, このような状況は変化し, 講習期間が短縮される一方, 大学在学中の教育実習に重点が置かれるようになっている。

教育実習の種類および期間については, 州単位で規定されているところもある。各大学において規定されているところもあり, 決して一体ではない。それゆえ, ここでは州単位で規定されている事例をいくつか取り上げ, 教育実習をめぐる状況を概説してみたい（表4）。

これらの例から明らかのように, 求められる教育実習の種類や期間は州によって非常に多様である。とりわけ注目に値するのが, ノルトライン・ヴェストファーレン州での合計で約8ヶ月にも及ぶ実習である。すでに上記で確認したように, 同州では2011年以降, 全ての校種の教職課程において最低合計5年間の実習が義務付けられるようになった。その間, 約1年弱を実習に費やした後, さらに2年間の講習期間を課すことから, 同州では教育実習を非常に重視しているといえよう。このような長期の教育実習はまた, ボローニャ・プロセス下での修学期間の長期化によって可能となったものと考えられる。

5．教育学専攻課程の設置状況


これらの大学のいくつかは学士課程と修士課程において同一カテゴリーに数えるコースを別名称で設けていない。例えば「Erziehungswissenschaft」（教育科学）という名称の学士課程を備えるベルリン自由大学では, 修士課程には「Bildungswissenschaft」（教育科学）というコースが設けられている一方, 「Erziehungswissenschaft」（教育科学）という名称のコースは設けていない。同様の事例は, 他にパルベルク大学, リューネブルク大学, オルデンブルク大学, ロシュトック大学などにおいても見られる。また, さらにいくつかの大学では学士課程と修士課程とで別カテゴリーに該当するコースが設けられており, 複数の領域に及ぶ学修が推奨されているのも理解できる。これらのコースのいくつかは教職課程とも接
### 表 5 教育学専攻課程の設置状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>学士課程設置大学</th>
<th>修士課程設置大学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アウグスブルク大学</td>
<td>アウグスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>パンベルク大学</td>
<td>パンベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルリン自由大学</td>
<td>ベルリン自由大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルリン・フレントブルク大学</td>
<td>ベルリン・フレントブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ビーレフェルト大学</td>
<td>ビーレフェルト大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ボッホム大学</td>
<td>ボッホム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ブラウンシュヴァイク工科大学</td>
<td>プレーメン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ケムニッツ工科大学</td>
<td>ケムニッツ工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ダルムシュタット工科大学</td>
<td>ダルムシュタット工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ドルトムント工科大学</td>
<td>ドルトムント工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td>デュイスブルク・エッセン大学</td>
<td>デュイスブルク・エッセン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>アイヒシュテット・インゴルシュタット大学</td>
<td>アイヒシュテット・インゴルシュタット大学</td>
</tr>
<tr>
<td>エアランゲン・ニュルンベルク大学</td>
<td>エアランゲン・ニュルンベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>フランクフルト・アム・マイン大学</td>
<td>フライブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>フライブルク教育大学</td>
<td>フライブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ギーセン大学</td>
<td>ケルン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハレ・ヴィッテンベルク大学</td>
<td>ハレ・ヴィッテンベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハンブルク大学</td>
<td>ハンブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハンブルク国立大学</td>
<td>ハンブルク国立大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ハイデルベルク大学</td>
<td>ハイデルベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヒルデスハイム大学</td>
<td>ヒルデスハイム大学</td>
</tr>
<tr>
<td>イエナ大学</td>
<td>イエナ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>カールスルーエ・テクノロジー・インスチテュート</td>
<td>カールスルーエ・テクノロジー・インスチテュート</td>
</tr>
<tr>
<td>キルケル・教育科学</td>
<td>キルケル・教育科学</td>
</tr>
<tr>
<td>コブレンツ・ランダウ大学</td>
<td>コブレンツ・ランダウ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>（2011年冬学期入学から）</td>
<td>（2011年冬学期入学から）</td>
</tr>
<tr>
<td>ケルン大学</td>
<td>ケルン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ルートヴィヒスブルク教育大学</td>
<td>ルートヴィヒスブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>リューネブルク大学</td>
<td>リューネブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>マインツ大学</td>
<td>マインツ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>マールブルク大学</td>
<td>マールブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ミュンヘン大学</td>
<td>ミュンヘン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ミュンヘン科学大学</td>
<td>ミュンヘン科学大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ミュンスター大学</td>
<td>ミュンスター大学</td>
</tr>
<tr>
<td>オルデンブルク大学</td>
<td>オルデンブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>オスナブリュック大学</td>
<td>オスナブリュック大学</td>
</tr>
<tr>
<td>パラマール大学</td>
<td>パラマール大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ボン大学</td>
<td>ボン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>レーゲンスブルク大学</td>
<td>レーゲンスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ロシュトゥック大学</td>
<td>ロシュトゥック大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ジュゼップ大学</td>
<td>ジュゼップ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>トリーバ大学</td>
<td>トリーバ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>テュービンゲン大学</td>
<td>テュービンゲン大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴァインガルテン教育大学</td>
<td>ヴァインガルテン教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴェッケ大学</td>
<td>ヴェッケ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴィッタール大学</td>
<td>ヴィッタール大学</td>
</tr>
<tr>
<td>ヴュルツブルク大学</td>
<td>ヴュルツブルク大学</td>
</tr>
</tbody>
</table>

続しており、教員養成の充実を図る場として捉えることもできよう。

6. 結わりに

以上で確認してきたとおり、ボローニャ・プロセッソにおいてドイツの教員養成制度および教職課程は大きな
改革に取り組んでいるが、その動きは州や大学ごとに多様である。しかし、従来は段階養成制度のもとで教員養成者（学生）の理論的教育に偏重してきたドイツの各大学が今日、様々な社会的変化の中で実践面での教員養成にも積極的に取り組んでいる点は注目に値しよう。近年、我が国の教員養成においても様々な改革が求められ、理論面・実践面での大学教育の充実を通じて「質保証」を行うことが強く求められている。ドイツの各州・各大学は今後も絶えず様々な改革の試みを続けることが予想されるが、ドイツにおける教員養成制度改革の動向からは両国の共通課題を確認することも可能であろう。我が国におけるドイツ教育研究においては、このような多様性を意識した上で、個々の取り組みの可能性を明らかにしていくことが求められよう。

**注**
(1) ボローニャ・プロセスの詳細および進展状況については木戸（2005年）および木戸（2008年）を参照。

<table>
<thead>
<tr>
<th>学士課程設置大学</th>
<th>修士課程設置大学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>初等教育学</td>
<td>アウグスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ベルリン自由大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ベルリン・フランブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td>幼児教育学</td>
<td>フライブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ハイデルベルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ルートヴィヒスブルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>シュヴェービッシュ・ミュント教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ヴァインガルテン教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>教育研究</td>
<td>パンベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>カッセル大学</td>
</tr>
<tr>
<td>メディエラ</td>
<td>エアフルト大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ハイデルベルク教育大学</td>
</tr>
<tr>
<td>成人教育学</td>
<td>パンベルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ベルリン・フランブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>デュイスブルク・エッセン大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>マインツ大学</td>
</tr>
<tr>
<td>（1911年冬学期開講予定）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別支援教育学</td>
<td>ドルトムント工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>フレンスブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ハノーファー大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ミュンヘン大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>オルデンブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ヴェルツブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ベルリン・フランブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ドルトムント工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td>教職教育学</td>
<td>ベルリン工科大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>マグデブルク大学</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>マグデブルク大学</td>
</tr>
</tbody>
</table>

251
5) 資料に関しては支部科学省の高谷亜由子氏から貴重な情報を提供して戴いた。
6) ザールラント州の教職課程については辻野（2010年）
を、ブラウンシュヴァイク工科大学における教職課程
についてはケムニッツ（2010年）、ポツダム大学の教
職課程については辻野（2009年）を参照。

(7) Vgl. http://www.bw-ckt.de/

(8) Vgl. Tenorth（2007）, S. 35f.

(9) KMK 教員養成スタンダードの策定責任については
別憲（2010年）を参照。

(10) ブラウンシュヴァイク工科大学における教育実習に
ついては、クラウゼ＝ホットップ（2010年）を参照。

主要引用・参考文献・資料
Deutscher Bildungsserver: Vorbereitungs-dienst
(http://www.bildungsserver.de/zeigen. html?seite=2521)。
Die Länder der Bundesrepublik Deutschland und
Bundesagentur für Arbeit (Hrsg.)（2010）: Studien- &

Erdsieck-Rave, U.（2007）: Bildungspolitisches Statement. In:
Hochschulrektorenkonferenz Service-Stelle Bologna
(2007).

Hochschulrektorenkonferenz:Hochschulkompass (http://
www.hochschulkompass.de/studium/suche.html)

Hochschulrektoren konferenz Service-Stelle Bologna
(Hrsg.)（2007）: Bologna nach Quedlinburg -Die
Reform des Lehramtssstudiums in Deutschland (http://
www.hrk-boologna.de/bologna/de/download/dateien/
Quedlinburg INTERNET_FINAL_15-05-07.pdf)。

Tenorth, H.-E.（2007）: Inhaltliche Reformziele in
der Lehrerbildung. In: Hochschulrektoren konferenz Service-
Stelle Bologna (2007).

Thierack, A.（2007）: Bachelor- und Master konzepte im
deutschen Lehramtstudium. In: Hochschulrektoren

木戸裕（2005年）「ヨーロッパの高等教育改革―ボロー
ーニャ・プロセスを中心に―」、「レファレンス」658
号。

木戸裕（2008年）「ヨーロッパ高等教育の課題―ボロー
ーニャ・プロセスの進展状況を中心として」、「レファレ
ンス」691号。

クラウゼ＝ホットップ, D.（2010年）「ドイツの教員養成
における学校実践的学修」、渡邊満、ノイマン, K.
編著「日本とドイツの教師教育改革：未来ための教
師をどう育てるか」東信堂。

ケムニッツ, H.（2010年）「ドイツの学士-修士制度に
おける教員養成―ブラウンシュヴァイク工科大学を例
に―」、渡邊満、ノイマン, K. 編著「日本とドイツ
の教師教育改革：未来ための教師をどう育てるか」
東信堂。

坂越正樹, 森川直（2010年）「ドイツにおける教員養成
制度の展開」、渡邊満、ノイマン, K. 編著「日本と
ドイツの教師教育改革：未来ための教師をどう育て
るか」東信堂。

辻野けんま（2009年）「ドイツの大学の学士・修士課程
における教員養成：ポツダム大学の『生活・倫理・宗
教科』教職課程を例に」、「教員養成カリキュラム開発
研究センター研究年報」第8号。

辻野けんま（2010年）「ドイツの教職課程改革における教
師教育の国際化への課題： ボローニャ・プロセスに
による「枠組みの共通化」とスタンダードによる「内容
の標準化」、「東京学芸大学、学習・研究環境の
改革」、「大学生教育カリキュラム開発
研究センター編『ヨーロッパにおける教師教育の国際
化研究プロジェクト報告書』東京学芸大学、学習・研
究センター、研究部

別懸淳二（2010年）「教員養成スタンダードの国際的な動
向」、渡邊満、ノイマン, K. 編著「日本とドイツの
教師教育改革：未来ための教師をどう育てるか」東
信堂。

吉岡真佐樹（2007年）「ドイツ大学改革と教員養成制度
改革の動向」、「教員養成カリキュラム開発研究センター
研究年報」第6号。

吉岡真佐樹（2010年）「EU 統合のなかでのドイツの教
師資質向上策―学士・修士課程の設置と試験制度の歴
史」、「月刊高校教育」第43巻、第6号。